

# 日本科学者会議

## 第 18 回総合学術研究集会(於宮城)

### 2nd Circular

基本テーマ 21 世紀：人類史の転換期における科学の役割  
- 多様性と普遍性の矛盾を考える

開催日時：2010 年 11 月 19 日(金) ~ 21 日(日)

開催場所：KKR ホテル仙台(宮城県仙台市青葉区錦町)

第 18 回総合学術研究集会(18 総学) 2nd Circular をお届けします

2008 年 11 月名古屋での 17 総学で、実行委員長の沢田昭二氏が、現代世界の「核帝国主義」勢力を包囲する平和希求の世界世論形成における科学者の役割を強調されました。このことは会員への大きな励ましとして受け止められました。

さて、2009 年 1 月米国大統領に就任したオバマ大統領の核軍縮やイラク撤退計画、グリーン資本主義の提唱、それに金融経済への規制などには、確かに変化が認められます。しかし、オバマ大統領は核兵器や通常兵器による「抑止力」論を維持しています。また、ベトナム戦争の肯定的評価などはアフガニスタンなどにおける「テロとの戦い」に通じています。

日本の鳩山政権は、一部で旧来の自民党政治からの転換を図りつつも、対米従属的性格を継承していますし、財界 = 資本にも弱腰の対応しかできていません。そのため、マニフェストから大幅に後退する始末です。米国の世界戦略における「同盟」関係強化の照準は、いまや日本です。しかし、日本の進むべき道は、世界レベルで先進的な日本国憲法の指し示す平和的人権保障の社会です。内外の原水爆禁止運動の実践をふまえて、核兵器ではなく「抑止力」によらない紛争解決という方法を選択するよう、米国に正確に伝えるのが日本外交の基調でなくてはなりません。今は 21 世紀において国際的に「名誉ある地位」に日本が立つことができるかどうかの岐路です。

核兵器廃絶はもちろんのこと、「ミサイル防衛」など宇宙規模にまで拡大する兵器体系と抑止力理論から脱却することによって、環境、貧困、差別など現代世界の基本問題の解決に繋ぐことができる社会体制論レベルの探究が科学者に求められています。その解決策は各国・地域と特性に応じて多様であります。同時に、科学研究の目標と体制整備のあり方が問題です。18 総学では、歴史的・現実的で多様な事象分析を持ち寄り、それらを総合して諸科学の成果を人類史の転換に生かしていくことの意義をお互いに確認し合いたいと思います。実行委員会は、各位の積極的な参加と討論を呼びかけます。

2010 年 4 月 20 日

第 18 回総合学術研究集会事務局長 伊藤宏之

## 講演会・分科会一覧

(括弧内は開催時間帯)

### 特別講演会

- 記念講演 川崎 健：科学が政治を動かす時代 (20 日午前)
- 市民と科学者の夕べ 気候変化問題を考える市民と科学者の夕べ - COP16にのぞむ -  
(19 日夜)

### 特別セッション

- 特別セッション 1 魯迅と仙台 (21 日午後)
- 特別セッション 2 21世紀社会論 (21 日午後)

### 講演募集分科会

#### A 人類史的転換期における科学の役割

- A1 平和問題 核兵器廃絶・基地撤去・安保破棄をめざして (20 日午後)
- A2 「共生」理念と中国 (21 日午前)
- A3 帝国主義政策と医学・医療 (21 日午前)
- A4 臓器移植と身体観 (21 日午後)

#### B 転換期の科学・技術政策

- B1 科学・技術政策 (20 日午後)
- B2 エネルギー・原子力問題 (21 日全日)
- B3 予防原則・リスク論を考える (21 日午前)
- B4 科学・技術の現状批判 Part 3  
「労働の多様性」は国民生活をどのように破壊したか (21 日午前)
- B5 科学・技術サロン  
日本の科学・技術の現状とロマンを語る Part 3 (21 日午後)

#### C 新しい学問の展開と方法

- C1 ネオリベラリズムとグローバル化についての学際的検討 (20 日午後)
- C2 複雑系科学と現代唯物論 (21 日午前)
- C3 言語学は科学か? Is Linguistics a Science? (21 日午後)

#### D 多様な学術・大学問題とその根源

- D1 大学・試験研究機関の法人化 そのもたらしたものと今後に向けて(20 日午後)

- D2 研究不正問題と大学の対応 (21 日午前)
- D3 大学自治の現在を考える 『東北大学百年史』を素材として (21 日午前)
- D4 新自由主義と教育の相克：子ども、親、教師、学校の今を考える (20 日午後)

#### E 多様な地域再生への道

- E1 地域医療、高齢者介護、保育、障害者福祉など社会保障を考える (20 日午後)
- E2 地方都市の再生をめざす担い手づくり (20 日午後)
- E3 限界状況の地域社会と国の諸政策 地域の再生、われわれの課題 (21 日全日)
- E4 ダム等の河川における大型公共事業の現状と環境保全 (20 日午後)
- E5 食と農の政策科学-農政転換の批判的検討 (21 日午前)
- E6 限界集落問題から見た農業の課題と展望 (20 日午後)

#### F 科学者運動の到達点と課題

- F1 男女共同参画はどこまで進んだのか (20 日午後)
- F2 研究者の権利・地位、倫理の確立に向けて (21 日午後)
- F3 JSA の運動をいかに立て直すか (20 日午後)

### 1. 開催日程

日	時間帯	内容
11月19日(金)	18:00～ 18:30～20:30	受付開始 公開講演会：市民と科学者の夕べ 「気候変化問題を考える市民と 科学者の夕べ - COP16 にのぞむ・」 (2F 蔵王の間、参加無料)
11月20日(土)	9:00～ 9:30～12:00  13:00～18:00  9:00～21日終了まで 17:00～18:30  18:30～20:30	受付開始 開会全体集会(2階蔵王の間) 開会の挨拶(阿部実行委員長) 基調報告(伊藤事務局長) 記念講演(川崎 健氏) 「科学が政治を動かす時代」  分科会  ポスター展示(1Fロビー) ポスターディスカッション  懇親会 (2階蔵王の間)
11月21日(日)	9:00～13:00 14:00～18:00 14:00～18:00 14:00～18:00	分科会 分科会 特別セッション1「魯迅と仙台」 特別セッション2「21世紀社会論」

## 2. 参加費

一般会員 4,000 円

非 会 員 4,500 円、非会員 1 日券 2,500 円

学部学生・院生 1,000 円、学部学生・院生 1 日券 500 円

(いずれも予稿集含む、一般会員および非会員の事前登録は 500 円割引)

懇親会 一般会員・非会員 3,000 円、学部学生・院生 1,000 円

**事前登録については 3rd サーキュラーで案内します。**

## 3. 講演募集

**講演申請を行う前に、あらかじめコーディネーターにご相談ください。**

「7.講演募集分科会の概要」にメールアドレスが記載されていない分科会に申請を希望される方は、18 総学実行委員会 [18sougaku@jsa.gr.jp](mailto:18sougaku@jsa.gr.jp) までお問い合わせください。

開催時間が限られていますので、応募者が多数にのぼる場合は、講演時間の短縮や講演をお断りすることがございますのでご了承ください。応募後の処理については実行委員会およびコーディネーターにお任せください。

講演申込は、講演者氏名・連絡先（住所、電話・FAX、E-mail）・希望分科会・講演題名・講演概要（200～400 字）を記入して p.16 の別紙申込用紙にて実行委員会まで申込み下さい。**申込用紙のテンプレート（Word 形式）は下記のホームページからダウンロードできます。**申込は電子メール、FAX、郵送で受け付け致しますが、**可能な限り電子メールでの申込にご協力下さい。**

電子メールの場合は、テンプレートの Word ファイルに記入し、電子メールにファイルを添付して下記申込専用アドレスまで送付ください。受付後 1 週間以内に受付確認を連絡します。コーディネーターにも申込用紙を送付ください。なお、非会員で講演申込される方は、申込の際に非会員であることを明記して下さい。

講演者には予稿集用の原稿を作成頂きます。**予稿集原稿の書式は、本サーキュラーの p.14 を参照下さい。**予稿集原稿のテンプレートは、下記のホームページからもダウンロード可能です。

講演申込先・原稿送付先： 日本科学者会議 第18回総合学術研究集会実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 茶州ビル9階

（郵送の場合は封筒に「18総学講演申込」と表記）

FAX：03-3813-2363、E-mail [submit-18sougaku@jsa.gr.jp](mailto:submit-18sougaku@jsa.gr.jp)（申込・原稿送付専用アドレス）

講演申込の締切日：8月2日(月)

予稿集原稿の締切日：9月21日(火)

（完全版下提出、パソコン入力の必要なものは9月7日）

申込用紙および予稿集原稿のテンプレートは下記のホームページからダウンロード可能です。

**18総学ホームページ：<http://www.jsa.gr.jp/18sougaku/>**

#### 4. 公開講演会

【11月19日(金) 18:30～20:30】 2階 蔵王の間(参加無料)

市民と科学者の夕べ

「気候変化問題を考える市民と科学者の夕べ - COP16にのぞむ - 」

コーディネーター：岩本智之（大阪支部）otto-mawis@rinku.zaq.ne.jp

18 総学は、「国連気候変動枠組み条約第 16 回締約国会議(COP16)」の直前に開催される。この会議は、昨年 12 月の COP15 において、京都議定書以降の国際的枠組みの策定に至らなかった事態を受けて、破局的な気候変化(俗にいう「地球温暖化」)を防止するため、きわめて重要な責務を負っている。

この時期、「温暖化」問題への国民的な関心が大きく高まることが予想される。一方、経済界などは温室効果ガス排出削減に抵抗しており、また IPCC の見解に対して「地球温暖化懐疑論」のような論調も出回っている。市民に正しく情報を提供し、ともに行動することは科学者の歴史的使命と言わねばならない。こうした社会的関心に応えて、市民と科学者が語り合う機会を提供しようとするものである。

#### 5. 開会全体集会

【11月20日(土) 9:30～12:00】 2階 蔵王の間

**開会の挨拶**：阿部兼也実行委員会委員長

**基調報告**：伊藤宏之実行委員会事務局長

**記念講演**：「科学が政治を動かす時代」

川崎 健 氏（日本科学者会議代表幹事）

IPCC の活動に見られるように、科学が政治を動かす時代に入った。それは、科学者が独立して国境を越えて連帯し、多様な事象の中を貫く統一性の認識を共有できたからである。しかし、それに政治がついていけない現実がある。大気・海洋・海洋生態系から構成される地球環境システムの持続可能性の問題について、物理過程と生物過程が響きあって進行する研究の到達点と、それに対応できない法と政治について論じたい。

#### 6. 特別セッション

【11月21日(日) 14:00～18:00】

特別セッション 1 「魯迅と仙台」

コーディネーター：阿部兼也，大村 泉（宮城支部）iomura@econ.tohoku.ac.jp

中国の文豪魯迅は 1904 年 9 月～1906 年 3 月に仙台医学専門学校に留学し、途中で医学の道を断念し文学に転じた。この意味で、仙台は偉大な作家魯迅が生まれた土地である。この分科会では、仙台時代を回顧して魯迅が後年著した作品、『藤野先生』(1926)を、藤野厳九郎医専教授の添削が克明に記録された魯迅『医学筆記』(北京魯迅博物館所蔵、中国国家一級文物)や当時の新聞、雑誌など一次史料に遡って検討し、魯迅生誕の謎に迫る。

## 特別セッション 2 「21 世紀社会論」

コーディネーター：松川康夫（21 世紀社会論研究委員会）matsuyan@k4.dion.ne.jp

21 世紀社会論研究委員会は、21 世紀を戦争、貧困、圧政、自然破壊からの脱出の世紀ととらえ、そのあり方を平和、民主主義、福祉、環境の 4 つの普遍的価値を実現するものとして構想し、出版をめざしてきた。この 21 世紀社会の構想を提示し、研究委員会や問題別委員会をはじめとする会内外の皆さんと広く議論することによって内容を精査し、かつ豊かにしたい。

### 7. 講演募集分科会の概要

#### 【A 人類史的転換期における科学の役割】

[A-1] 平和問題 核兵器廃絶・基地撤去・安保破棄をめざして

コーディネーター：沢田昭二、亀山統一（平和問題研究委員会）sawadas@fb3.so-net.ne.jp

設置趣旨：2010 年には、核兵器廃絶を求める世界世論がかつてなく高まる中で 5 月 3 日から核不拡散条約再検討会議が開かれます。また、2010 年は日米安全保障条約が改定されて 50 年を迎え、普天間基地の撤去をめぐる鳩山政権の対応が注目されます。さらに今年には韓国併合 100 年を迎え、アジアの平和の枠組みづくりにおいて歴史認識が重要になっています。こうした問題を掘下げ、2010 年から始まる 10 年間で世界と日本が平和に向かう転機とする 10 年間にするための具体的課題についての報告と討論を期待する。

[A-2] 「共生」理念と中国

コーディネーター：田中雄三（京都支部）、大西 広（京都支部）ytanaka@snow.dti2.ne.jp

設置趣旨：過去四半世紀の世界における「中国」の位置の拡大は、ほとんど地殻構造の急変を思わせるものがある。今ではもう、中国の内政、外交状況を念頭に置くことなしには、近未来における諸民族やその文明の共生的展望について語ることもできない。当分科会では、巨大化した隣国が直面する多くの難題のうち、「民族問題」、「経済成長」、「環境問題」をとりあげて考察し、併せて日中両国間における新たな関係構築の方向性を探る。

[A-3] 帝国主義政策と医学・医療

コーディネーター：村口 至、刈田啓史郎（宮城支部）

ikmura@helen.ocn.ne.jp Keishiro.Karita@mc2.seikyoku.ne.jp

設置趣旨：韓国併合 100 年に当たり、日本の帝国主義政策がわが国の医学・医療の歴史、発展に与えた影響について探る。前半 50 年間の帝国主義政策と後 50 年間の日米安保による対米従属が日本の医学・医療にもたらした影響は何か。現代の医学医療の現象には植民地支配と被支配はどのように現れているかなどが問われる。たとえば、医学・医療団体の戦争協力、強制連行と医療、帝大医学部と 731 部隊などの検証が求められている。なお、特定の地域を視野に入れた課題も歓迎する。

#### [A-4] 臓器移植と身体観

コーディネーター：黒須三恵（生命倫理研究委員会）krs-uou@tokyo-med.ac.jp

設置趣旨：昨年7月に「改正」された臓器移植法が7月17日に全面施行される。18 総学開催の11月までには脳死臓器移植の実施が数例予想されるので、その検証も含めて臓器移植法の問題点を検討する。死者からの臓器提供は少なく、腎臓や肝臓では身内からの生体臓器提供が多くなっている。我々の身体観・遺体観についても検討する。「人体の不思議展」が全国的に開催されてきた。遺体の出所は、死者および遺族からの展示の同意取得はどうなっているのか。この展示についても考えることにする。

### 【B 転換期の科学・技術政策】

#### [B-1] 科学・技術政策

コーディネーター：稲生 勝（岐阜支部）inoo@gifu-u.ac.jp

設置趣旨：1995年に科学技術基本法が制定され、5年ずつ科学技術基本計画が策定されてきた。現在は、第3期が終了に近づき、ポスト「第3期科学技術基本計画」が策定されつつある。このポスト「第3期科学技術基本計画」の策定状況およびこれまでの「科学技術基本計画」のありかたを批判的に検討し、対抗理念を考えていきたい。科学と技術の区分など、従来、日本科学者会議で議論されてきた論点も現れつつあり、理念のレベルまで議論を深める必要があると思われる。

#### [B-2] エネルギー・原子力問題

コーディネーター：野口邦和、舘野 淳（東京支部）noguchi-k@dent.nihon-u.ac.jp

設置趣旨：地球温暖化対策の有力なひとつとして原子力発電が推進されようとしている。しかし、原子力発電には、発電用原子炉の安全性、放射性廃棄物の安全な処分の見通し、核兵器の拡散との関連で大きな欠陥がある。また、発電用原子炉の安全性との関わりで、老朽化問題、耐震安全問題も浮上している。分科会ではこうした問題を検討する。併せてエネルギー問題についても検討するが、報告者の人数が多い場合は、エネルギー問題と原子力問題を分けることも考えている。

#### [B-3] 予防原則・リスク論を考える

コーディネーター：西川榮一（兵庫支部）e-nishikawa@dab.hi-ho.ne.jp

設置趣旨：環境政策における「予防原則」（precautionary principle）の考え方はドイツで発生し、1992年の「リオ宣言」第15原則で、国際的に承認された環境政策の原則となった。しかし、日本における環境政策では、ほとんど「棚上げされた」状態のまま推移している。一方、リスク論は、被害の過小評価や被害者切り捨てにも利用されている。当分科会では、予防原則およびリスク論が、日本の環境政策や食品安全政策で、どのようになっているかを分析（検証）するとともに、課題と問題点について検討したいと考えている。

#### [B-4] 科学・技術の現状批判 Part 3

「労働の多様性」は国民生活をどのように破壊したか

コーディネーター：長田好弘（東京支部）、久志本俊弘（大阪支部）、酒井士朗（東京支部）  
ssakai@jcom.home.ne.jp

設置の趣旨：政権交代後の事業仕分における論議は、「効率性」追求や「競争力」強化でゆがめられた科学技術、高等教育の現状の一端が国民の前に露出することにもなり、国民的な議

論と協同によりその改善をはかっていくことの重要性があらためて明らかになった。「科学立国」のかけ声のもとで、「労働の多様性」「労働力流動」が促進され、無権利状態のおしつけは強まり、研究者・技術者の中で突然の首切り・雇い止めが頻発し、過労死・過労自死に至る疲労の蓄積が広がっている。トヨタ車リコール問題など国民の安全を脅かす事故も続出している。安全な高度技術構築のための研究者・技術者の役割と自覚、働くものの権利意識と誇りを高めあい、打開の道確かめ合う、交流と連帯を主とした報告・発言の場としたい。

[B-5] 科学・技術サロン 日本の科学・技術の現状とロマンを語る Part 3

コーディネーター：長田好弘、榊原道夫、松永光司（東京支部）

matsunaga\_mitsushi@hotmail.com

設置の趣旨：鳩山政権下の「事業仕分け」には各界各層の関心と議論が集まった。市民から国民生活の疲弊した現状と比して、科学技術関係予算増額要求の議論にも疑問が提示された。国民の期待に沿った、学術の総合的でつり合いのとれた発展のため、予算のあり方を含めて、科学技術開発等の諸問題に関して、広く国民と正しい認識を共有し、旧政権・財界の科学技術行政、教育行政のもとで疲弊させられた科学・技術、高等教育の現状と多数の研究者の窮状を、国民的な議論によって改善をはかることが緊急の課題になっている。科学・技術上のトピックスやロマン、政府・財界の科学技術行政に起因する諸問題の現状批判、科学・技術の軍事利用反対など、「科学・技術の成果を人々の幸福追求の手段に」との立場からの報告・発言を求めるなごやかな科学・技術サロンとしたい。

## 【C 新しい学問の展開と方法】

[C-1] ネオリベラリズムとグローバル化についての学際的検討

コーディネーター：木下ちがや（東京支部）sd011018@g.hit-u.ac.jp

設置趣旨：ネオリベラリズム、グローバルizmという問題系は、人文、社会科学研究をおこなっていきうえで対峙すべき共通課題になっている。このシンポジウムでは、経済学、政治学、哲学、歴史学などの個別領域に取組む若手研究者の問題関心と想像力をひろげていくという観点から、課題を提示していきたい。

[C-2] 複雑系科学と現代唯物論

コーディネーター：嶋田一郎（宮城支部）、栗野 宏（山形支部）

ishimada@mail.tains.tohoku.ac.jp

設置趣旨：20世紀末以来、複雑系科学が注目されている。不安定性と揺らぎ、そして対称性の破れと階層性が、自然界に見出される構造と運動の驚くほどの多様さと豊かさを究極的に生み出していることが明らかになってきた。複雑系科学は、多様な自然現象と自然災害、宇宙から生命までの発生と進化、人間の精神活動と社会の発展など、自然界の壮大な変化と発展について挑戦をつづけている。決定論と確率論、単純さと複雑さ、普遍性と多様性などの対立概念の相互関係の解明に向けて、現代の弁証法的唯物論と複雑系科学はどのように関連し発展していくのか？ 本分科会では、広範な分野からのアプローチを期待したい。

[C-3] 言語学は科学か？ Is Linguistics a Science? （使用言語：英語）

コーディネーター：三宅良美（秋田支部）miyake@ed.akita-u.ac.jp

設置趣旨（Short abstract）：For the past 50 years linguistics has justified itself as a field of academic enquiry in part on the claims that it is a science and it is a window on the mind. The panel proposed



by us includes speakers who take opposed positions on the validity of these claims. On one side is a participant who strongly supports the claim that linguistics is indeed a science, conforming to the methods and promising the results of established natural sciences like physics and chemistry. On the other side is a participant who maintains that human languages are not coherent systems but rather tools of communication and that linguistics as a field is to be compared to the study of history and the other humanities.

過去 50 年間、言語学は学術研究の一分野として次のようなことを主張し続けた：1. 言語学は科学である。2. 言語学は、脳へのウィンドウである。

我々の分科会は、こうした主張について、お互いに正反対の見解を交換する。まず、言語学の方法論が、仮説と結果が存在する物理学と化学のように、ハードな自然科学と同様の科学である、という主張がある。一方、人間の言語は一貫性のあるシステムではなく、コミュニケーション「通信」のための単なる道具である、という見方。このような見解では、言語学を歴史学同様、人文学とみなすべきだと考える。分科会の発表者は議論を通じて科学の定義の一般的基準を明確にしつつ、言語学そのものの問題に光を投げかける。

【キーワード】言語学，自然科学，人文学，基準

## 【D 多様な学術・大学問題とその根源】

[D-1] 大学・試験研究機関の法人化 そのもたらしたものと今後に向けて

コーディネーター：五十子満大（東京支部） 井村 治（栃木支部）

[ablamenroku@yahoo.co.jp](mailto:ablamenroku@yahoo.co.jp)

設置趣旨：2000 年代に新自由主義政策により大学・試験研究機関が相次いで法人化された結果、日本の高等教育や公的試験研究現場にさまざまな弊害をもたらした。大学法人が第二期、研究開発法人が第三期を迎える中で、法人化がもたらした矛盾と弊害、「民主党政権の教育政策の動向と分析」、中教審・大学分科会の動向、大学法人化第 2 期中期目標・中期計画の諸問題、教員養成制度の問題について明らかにする分科会としたい。また今後に向けて大学と研究機関に共通した課題や運動を議論する。道州制と大学の統合再編の問題などもテーマとしたい。

[D-2] 研究不正問題と大学の対応

コーディネーター：大村 泉、高橋禮二郎（宮城支部）[iomura@econ.tohoku.ac.jp](mailto:iomura@econ.tohoku.ac.jp)

設置趣旨：大学法人化以後、研究不正問題が以前に比し、質量共にむしろ悪化しているのではないか、と思われる。本分科会では、そうした事例、および案件に対する大学をはじめとする研究機関（学会、研究所、財団等）の対応のケーススタディーを試み、現今下の大学問題解明の一助としたい。コーディネーターは、井上明久東北大学総長の研究不正疑惑や、東北大学歯学研究科の研究不正問題とそれへの学会、大学の対応について報告したい。多数の会員の報告討論会への参加を希望する。

[D-3] 大学自治の現在を考える 『東北大学百年史』を素材として

コーディネーター：入間田宣夫（宮城支部）[irumada@aga.tuad.ac.jp](mailto:irumada@aga.tuad.ac.jp)

設置趣旨：『東北大学百年史』（2007 年）には、戦前における帝国大学としての出発から、戦後における新制大学としての再出発を経て、高度経済成長期を迎える直前（1957 年）にいたる、歴史的経過が取り上げられている。なかでも、「大学自治の現在を考える」うえで汲み取るべき貴重な経験の数々については、歯切れのよい筆致をもって、ふんだんに取り上げられている。それらの経験の数々には、ただに東北大学のみにはあらず、全国の大学のそれに響

きあう普遍的な性質が内在していた。その辺り事情を明らかにするべく、今回は、『百年史』の執筆に当たったメンバー4名による報告を素材として、各大学の経験に照らし合わせながら、活発な討論の展開を期待することにしたい。司会は、『福島大学 50 年史』編纂の取りまとめに当たった伊藤氏である。それによって、討論内容の広がりが促進されるに違いない。ただし、東北大学・福島大学のほかに、大学史の取り組みのなかで、貴重な経験が浮き彫りにされている事例があるように想われる。その若干について、報告をしていただければ、ますます、豊かなものになるに違いない。

[D-4] 新自由主義と教育の相克：子ども、親、教師、学校の今を考える

コーディネーター：佐藤修司（秋田支部）ssato@ed.akita-u.ac.jp

設置趣旨：新自由主義の社会への浸透、そして新自由主義教育政策の進展に伴い、教育の危機が深まっている。教育基本法の改悪前後より、学習指導要領の改編、学力テスト、教員免許状更新制、副校長・主幹教諭・指導教諭の創設、指導改善研修、教員評価・学校評価、成果主義の賃金・予算配分など、競争原理、市場原理に基づく管理統制が強められている。他方で、日の丸・君が代、愛国心問題、自由主義史観に基づく教科書の採択なども見逃せない。いじめ、不登校も継続する課題であり、格差社会の中で子どもの貧困も目立つようになってきた。子ども手当、高校授業料無償化などの政策が今後どう展開し、何をもたらすのかが注目される。政権交代も見据えながら、現状を正確にとらえるとともに、研究者、とりわけ教育研究者（教師も含めて）のあり方を考えてみたい。

## 【E 多様な地域再生への道】

[E-1] 地域医療、高齢者介護、保育、障害者福祉など社会保障を考える

コーディネーター：刈田啓史郎、宮田猪一郎、佐俣主紀（宮城支部）

Keishiro.Karita@mc2.seikyoku.ne.jp

設置趣旨：貧困と格差が進行する中で、地方病院の閉鎖など、地域医療の崩壊が進み、地域社会に大きな不安を与えている。特養待機者数の増加や保育所不足は、高齢者介護や子育てに支障をきたしており、どちらも生活不安を深刻化させている。障害者自立支援法廃止の運動は、一定の成果を勝ち取っているが、そのことが社会保障全体に良い影響を与えることができるのか、単なる「例外」として処理されてしまうのかが問われている。事実、後期高齢者医療制度の「廃止」の約束は、反故にされそうである。この分科会では、各地で進められている社会保障推進運動、就労の負のインセンティブの側面をもつ現在の社会保障のあり方など、社会保障に関するさまざまな問題を議論していただく。

[E-2] 地方都市の再生をめざす担い手づくり

コーディネーター：栗野 宏（山形支部）hirosius-avanus@coral.plala.or.jp

設置趣旨：こんにち日本における地域社会の崩壊は、自治体財政の逼迫、中心市街地の空洞化、地域経済の疲弊が著しい地方都市でとりわけ深刻である。地方都市の再生をめざす担い手づくりは緊急の課題となっている。17 総学でわれわれは、「地方都市の再生をめざす担い手集団形成の現実と課題」について論議を深めた。それをふまえた本分科会では、(1)地方都市の再生をめざすとりくみで担い手づくりの果たした役割に関する事例研究、(2)担い手づくりのとりくみに関する事例研究、を募集する。対象地域としては、必ずしも都市に限定することなく、農山村地域をも含める可能性がある。

【キーワード】生涯学習，地域社会，地方都市，地方都市再生，担い手，人づくり，まちおこし，まちづくり

### [E-3] 限界状況の地域社会と国の諸政策 地域の再生、われわれの課題

コーディネーター: 飯田克平 (日本海委員会) 18sougaku@jsa.gr.jp

設置趣旨: 第16回、第17回総合学術集会において、分科会「地域の現実と『小泉改革』」を組織し、地域の厳しい現実とわれわれの課題について討議した。前回までに引き続き、新自由主義的規制緩和と行財政改革の中で、地域が直面する課題を「限界状況の地域社会として取り上げたい。今、個別の課題にとどまらず、地域全体が限界に直面している。「平成の大合併」も地域社会に大きな影響を与えた。さらに、企図されている「道州制」は、地域に厄災をもたらす危険性を秘めている。同時に、われわれは、地域再生の努力が積み重ねられていることにも注目しなければならない。地域の限界状況と「平成の大合併」、「道州制」などの国の諸政策との関連、そして、地域再生への努力や展望を語る報告をお願いしたい。また、このような課題に対する日本科学者会議の取り組み方についても意見を交換したい。

### [E-4] ダム等の河川における大型公共事業の現状と環境保全

コーディネーター: 二平 章 (茨城支部) nihira@air.ocn.ne.jp

設置趣旨: 「特定多目的ダム法」(1957年)や「水資源開発促進法」(1961年)の策定以降、河川への公共投資は河口堰やダム建設に向けられ全国各地で巨大開発が進行、その結果、自然破壊による環境汚染や漁業被害から反対運動が広がった。長年にわたる流域住民らの運動は、近年ついに地方自治体の首長を動かし、新政権下の国土交通大臣は、大型ダム工事凍結宣言を出すまでにいたった。しかし、今後の河川行政を流域の自然環境や生態系、漁業資源を大切にす方向へ転換させていくためには、より広範な流域住民の声や、「ダムに頼らない治水」の科学的根拠、具体的提言が必要とされ、科学者研究者の役割への期待は大きい。分科会では全国におけるダム・河口堰・導水事業をめぐる現状と流域の自然環境保全のための課題について議論する。

### [E-5] 食と農の政策科学-農政転換の批判的検討

コーディネーター: 冬木勝仁 (食糧問題研究委員会) fuyuki@bios.tohoku.ac.jp

設置趣旨: 昨年の政権交代後、農業・食糧政策の変化が見られる。今年の4月からは政権公約の目玉の一つであった戸別所得補償が開始された。また、一昨年の事故米の不正規流通事件を受け、米のトレーサビリティも開始された。こうした一連の政策転換が日本の農業をどのように変えるのか。また、安全な食糧の安定供給にどのような影響を及ぼすのか。こうした問題について科学的に検討を加える。

### [E-6] 限界集落問題から見た農業の課題と展望

コーディネーター: 近藤 正、宮入 隆 (秋田支部) t\_kondo@akita-pu.ac.jp

設置趣旨: 農業の役割が様々な局面から再認識される一方で、依然として、農業に対する現状認識と国としての責任を果すべく政策的対応の弱さが、限界集落に集約される農業の衰退を加速させ続けている。本分科会では、農業・農村の衰退と農業の多面的機能の崩壊、地域・社会の崩壊の現状から、地域再生の取組み、政策的課題など農業の展望について議論する。

## 【F 科学者運動の到達点と課題】

### [F-1] 男女共同参画はどこまで進んだのか

コーディネーター: 金子幸代 (女性研究者・技術者委員会) kaneko@hmt.u-toyama.ac.jp

設置趣旨: 男女共同参画社会基本法が施行され10年たち、男女共同参画に関する法律や制度は一応整備されてきたが、欧米先進諸外国と比べて意思決定レベルの女性比率の低さや科学

技術分野における女性研究者の極端な少なさは一向に改善されていない。文部科学省は「女性研究者支援モデル育成事業」を用意し、2006年～2009年にかけて45大学・研究所等の機関が採択されている。しかし、実際に女性研究者は働きやすくなってきているのだろうか。若い女性研究者・技術者は増えてきたのだろうか。本分科会では「男女共同参画はどこまで進んだのか」をテーマとし、各大学・研究所等の男女共同参画の取り組み状況や現状を踏まえ、男女ともに働きやすい職場作りや女性研究者・技術者の拡大のための方策を具体的に検討していくことを目的とする。

#### [F-2] 研究者の権利・地位、倫理の確立に向けて

コーディネーター：丹生淳郷（科学者の権利問題委員会）kiyosato-new@est.ki-ho.ne.jp

設置趣旨：研究者が所属するあらゆる階層・機関を問わず、権利や地位の侵害が深刻化し、加えて研究倫理の崩壊も進んでいる。「研究者の権利・地位・倫理」文書採択は過去数回の大会決定であることを踏まえ、第38回大会報告とされた文書を今日的な情勢にあったものに修正し、文書採択とその実践のための合意形成に向けて報告・討論する。

「研究者の権利・地位、倫理の確立」を主テーマとし、「権利・地位・倫理文書」の意義と科学者運動への貢献を軸として当委員会から提起、会員（支部・分野・所属機関・階層など）から本主題に係る課題を各々報告・討論して主題を深める。

#### [F-3] JSAの運動をいかに立て直すか

コーディネーター：長田好弘、佐久間英俊（東京支部）sakuma@usagi.tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨：いま日本科学者会議（JSA）は、間違いなく日本の科学運動の枢軸をなしている。また、その組織運営においても全国や支部役員などを中心に献身的な努力が払われているが、にもかかわらず残念ながら、過去20年長きにわたりJSAの会員数は減り続けており、このまま推移するなら組織の壊滅という重大事態を迎えかねない。それはすなわち、運動の分析がいまだ不十分であるか、あるいは方針が少なくとも不十分なものとどまっているからであろう。

当分科会ではこれらのことを念頭において、JSAの運動をいかに立て直していけば良いのかについて考察する。より具体的に言えば、1) JSAの社会的存在意義は高まっている、2) それにもかかわらず、会員数が減少し続ける理由は何か、3) 会員数を増勢に転じるためには何が必要なのか、4) 科学運動の歴史の教訓は何か、といった論点を改めて検討する。

会員数で見れば、東京支部は全体の数分の1を占める大規模支部であり、全国と同様に、会員数を減らし続けてきたが、昨年度（2008年度）は支部の会員数を増勢に反転させ、数十名の会員増を達成した。また今年度も現時点で、前年同月比で会員数を上回っている。そこで、近年の支部活動の肯定的要因を析出するとともに、全国の支部のお役に立つことを願って、東京支部の取り組みの特徴点を具体的に紹介する。

##### <報告の概要>

- 1 現在の情勢とJSAの存在意義・役割（情勢の肯定面と否定面、科学運動の今日的役割など）
- 2 JSAの魅力、運動の改善方向（会の魅力とその伝達、若手の育成など）
- 3 院生分野における活動の活性化（院生会員の要求、研究会・合宿、会員間の交流、会員拡大）
- 4 活発な分会からの活動報告（定例研究会・合宿、ニュースの定期発行など）
- 5 個人会員を重視した活動（地域別研究会、FW、ニュースの季刊発行など）
- 6 その他（政府財界による科学技術（者）の分断攻撃と絡め取りと戦略、他団体との連帯など）

## 【ポスターセッション】

上記の分科会以外に、自由演題としてポスター発表を受付けます。

18 総学の目的の一つに、各支部参加と活動の交流があります。したがって「ポスターセッション」は、各支部、各会員のさまざまな「交流の場」と考えます。

各支部の創立、伝統、現在の活動の紹介などを歓迎します。各支部が活動する学園、地域の学問・研究・教育活動、自治体の政治情勢と支部独自の活動、他団体との共同活動の紹介を歓迎します。

ポスターのサイズは A0 用紙縦置き（横 84.1cm × 縦 118.9cm）内のサイズに収まる様に準備ください。

掲示は 20 日（土）9：00 から 21 日（日）18：00 までです。

なお、20 日（土）17：00～18：30 はポスターディスカッションの時間としますので、発表者はポスターの前にお立ちくだされ、参加者との闊達な議論を深めて下さい。なお、分科会での発表も兼ねておられる方で、この時間帯に発表を予定されている方は可能な範囲で構いません。

## 8. 18 総学プレ企画

18 総学に向けた取り組みを強めるための各地区・支部・分会主催のプレ企画を推奨します。ポスターセッションで報告展示して頂けるとありがたいです。

これまでに行われた各地区のプレ企画：

- ・東北地区シンポジウム「法人化後の大学の変貌とその未来」  
（2009 年11月7日～8日，仙台市茂庭荘）
- ・九州沖縄シンポ2009  
全体シンポジウム「地球環境と地球温暖化をどう見るか」  
（2009年11月28日～29日，鹿児島大学）
- ・東京支部第 15 回東京科学シンポジウム「理性と希望の平和な時代を拓く」  
（2009 年 11 月 28 日～29 日，中央大学）20 分科会
- ・中国地区シンポジウム「中国地方の発展戦略と道州制問題」  
（2010 年 3 月 6 日，山口県）
- ・北陸地区合同シンポジウム「市民が求める大学とはどんなものか」  
（2010 年 4 月 17 日～18 日，石川県）

## 9. 予稿集原稿の書式

用紙サイズと枚数： A4 用紙 2 枚。(図表を含む。)

ページ設定： 1 行文字数 46 文字、行数 40 行。

最後には必ず参考引用文献を明記ください。

上記指定フォントの使用ができない時は、これに近いフォントを使用して下さい。

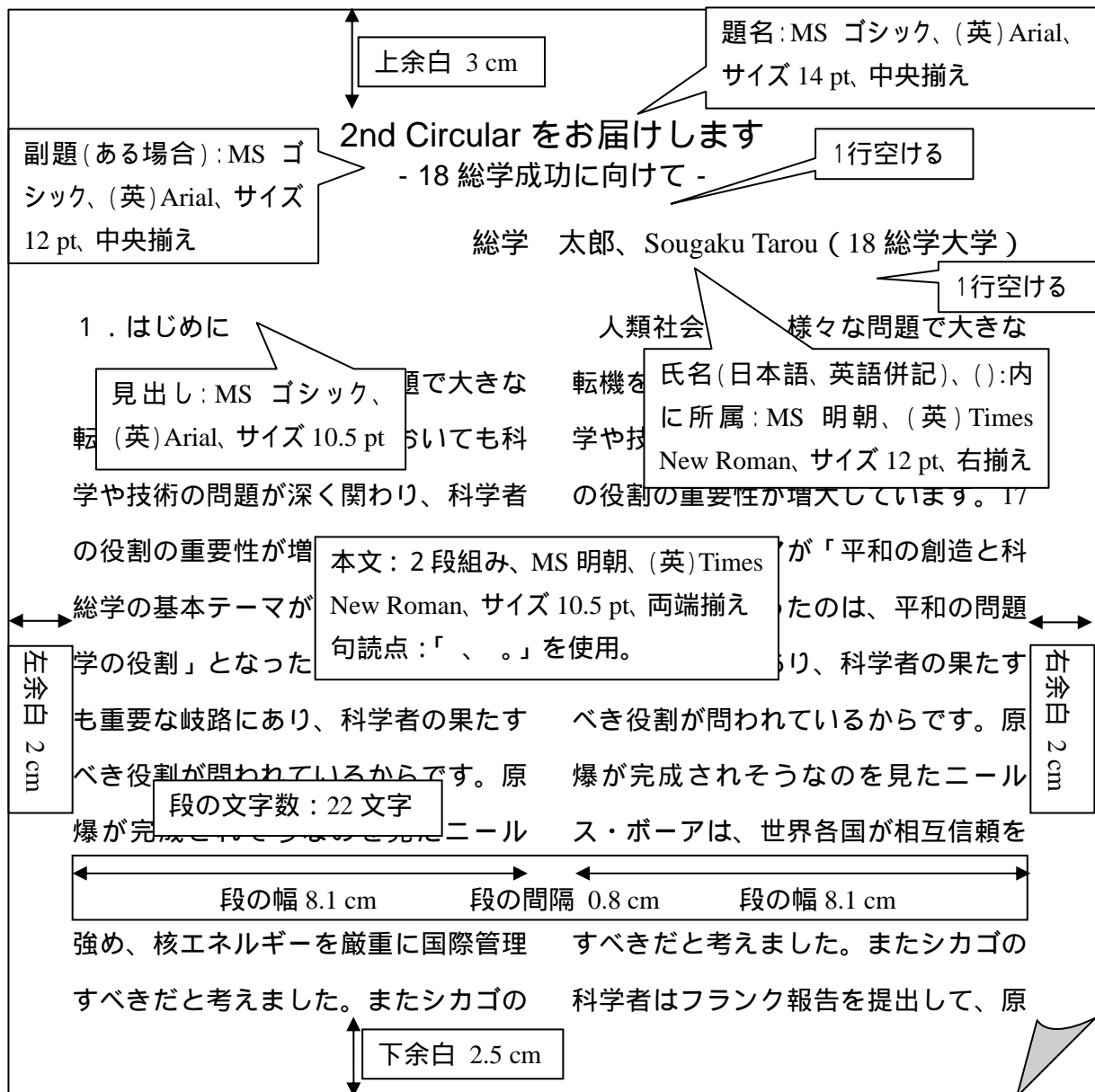
使用ソフト：Microsoft Word とします。

Word 2007 を使用の方は、Word 97-2003 互換形式 (doc ファイル) で保存し、pdf に変換して原稿送付専用アドレスに送付ください。

pdf 変換が無理な方は Word の doc ファイルでも受け付けます。

テンプレートは、18 総学ホームページからダウンロードできます。

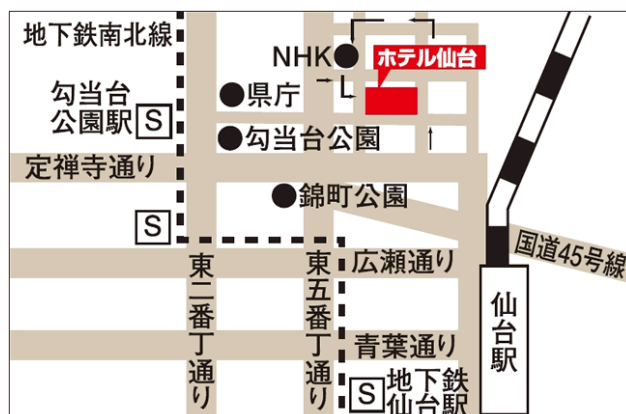
上記書式での原稿作成が困難な場合は、早めにコーディネーターにご相談下さい。



## 会場案内

KKR ホテル仙台（国家公務員共済組合連合会仙台共済会館）

住所：仙台市青葉区錦町 1-8-17 TEL：022-225-5201 FAX：022-265-7701



宿泊希望の方は直接、KKR 仙台にお電話ください。  
（その際に「18 総学の参加者です」とお伝えください）  
宿泊代は1泊あたり5,000円です。

### 【保育室の設置】

保育室を希望される方は、実行委員会までご相談ください（8月31日まで）。  
状況に応じた保育室の設置を検討します。

### 【日本科学者会議第18回総合学術研究集会実行委員会】

- 実行委員長 阿部兼也（東北大学名誉教授）  
事務局長 伊藤宏之（福島支部事務局長）  
事務局次長 岩本智之（全国事務局次長）、西崎 滋（岩手支部）、  
左近拓男（秋田支部）、嶋田一郎（宮城支部）、高木 直（山形支部）、  
伊藤昌太（福島支部）  
実行委員 石川隆二（青森支部）、井上博夫（岩手支部）、山元正継（秋田支部）、  
三宅良美（秋田支部）、小笠原卓（宮城支部）、石栗義雄（宮城支部）、  
栗野 宏（山形支部）、斎藤 毅（福島支部）、佐久間英俊（東京支部）、  
今井証三（愛知支部）

日本科学者会議第18回総合学術研究集会実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル9階

電話 03-3812-1472、FAX 03-3813-2363、

E-mail：18sougaku@jsa.gr.jp（問合せ用アドレス）

E-mail：submit-18sougaku@jsa.gr.jp（申込・原稿送付専用アドレス）

ホームページ：http://www.jsa.gr.jp/18sougaku/

日本科学者会議 第18回総合学術研究集会 講演申込用紙

2010年 月 日 ( 受付番号 )

1. 講演者氏名 (フリガナ) :

\_\_\_\_\_

2. 連絡先 :

a) 住所 〒 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

b) 電話 ( \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ )

FAX ( \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ )

c) E-mail : \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

3. 講演を希望する分科会 :

番号 \_\_\_\_\_ 分科会名 \_\_\_\_\_

4. 講演題名 :

5. 講演概要 (200 ~ 400 字) :

- 注) ・講演申請を行なう前に、あらかじめコーディネーターにご相談ください。  
・申込用紙は実行委員会と、コーディネーターにも送付ください。  
・申込後1週間経て実行委員会より受領の返信がない場合には連絡して下さい。  
・テンプレート (Word形式) は18総学ホームページにあります。  
・電子メールが使えない方のみ、この面をコピーして必要事項を記入し、FAXか郵送で18総学事務局宛に送付してください。  
・講演申込締め切り8月2日、予稿集原稿締め切り9月21日を厳守してください。